

No. 347【2019年3月8日配信】

松森村と松森町(担当:鈴木)

こんにちは! 嘱託員の鈴木です。だいぶ春めいてきましたね。

今回も新展示「地名や町並みにみる青森市の歴史」にちなんだ話題をお届けします。

以前、市民のかたから明治23年(1890)頃の「青森町松森町」についてお問合せをいただいたことがありました。そのかたは、現在の「青森市松森1～3丁目」(駒込川と藤田組通りに挟まれた地区)を「松森町」だと思われていたのですが、実はこの二つの松森はまったく別の地区です。現在の青森市域には、かつて「松森村」と「松森町」がありました。



青森市松森町【赤い丸】と浜館村松森【青い丸】
(昭和11年「都市計画 青森市街全図」、歴史資料室蔵)

まず、駒込川の東側に位置する「松森村」は江戸時代からの地名であり、福田・佃の二つの小字がありました。明治9年の『新撰陸奥国誌』には、「家数29軒、卑地(低湿地)にして田多し、農隙流木を出すを業とす」と書かれています。

明治22年、松森村は町村制施行により、浜館、古館、田屋敷、戸山、沢山、駒込、小柳、八重田、造道(浪打を除く)の各村と合併し、新しく成立した造道村の大字となります。そして、昭和2年(1927)には大字造道・八重田が青森市に編入されると村名が造道村から浜館村に変わり、さらに昭和30年の浜館村と青森市の合併により、青森市大字松森となりました。

その後、住居表示整備事業により、昭和62年に大字松森字福田と大字松森字佃の一部は松森1～3丁目および佃1～3丁目に、また平成元年(1989)には上記以外の大字松森字佃は中佃1～3丁目および南佃1～2丁目と町名が変更されたのでした。小字名の福田はなくなりましたが、町会の名前として残っています。

一方、「松森町」は江戸時代から昭和 43 年まであった地名です。場所は、ホテル青森の交差点からうとう橋の手前まで東西にのびる道路の両側にあたり、『新撰陸奥国誌』には「家数 82 軒、^{たんぼ}多は農民の住居なり、南は田圃にして…」とあります。

また、明治 25 年の「青森実地明細絵図」を見ても、この通りには大きな商店などはなく、青森の町外れのようなです。ただ、この頃の松森町には、現在の青森市域で 2 番目に開設された私立学校がありました。

それは、貧しくて公立小学校に通えない児童と、諸官庁で働く青年の夜学のために、青森県師範学校長を退職した沖津 ^{おきつじゅん} 醇 が民家を改造し、明治 20 年に開いた青湾学舎です。沖津は授業料未納による経費の不足を家計費で補うなどしながら、明治 32 年に閉校するまで、ここで貧しい青少年の教育に奮闘したのです。

その後、昭和 43 年に松森町は南北それぞれ堤町 1 丁目・青柳 2 丁目と町名が変わり、今は松森町の名前が町会名に残っています。

市内には、他にもこうした古い地名や通称が町会名に残っているところがありますので、その由来を調べてみるのも面白いですね！



松森町会掲示板と福田保育園の看板
(松森 2 丁目)



松森町の標柱と松森町町会集会所
(堤町 1 丁目)